

地域課題の解決に向けた取組

五稜郭国有林における樹種転換事業

檜山森林管理署

【はじめに】

五稜郭国有林は函館市の五稜郭の東側から東へ300mほどの住宅街に位置し、林縁には民家や学校が隣接しています。大正10年に風致保安林、平成7年には保健保安林に指定され、歴史ある赤松並木の景観と保健休養の場として広く親しまれています。



【五稜郭国有林の現状】

五稜郭国有林は、主に昭和8年に植栽された90年生のヤチダモ人工林で、ヤチダモ人工林の面積は0.92ha、ha当りの本数は400本となっています。近年、ヤチダモの成長に伴い、近隣への枯れ枝の飛来や日照不足、害虫発生といった弊害も多く見られるようになってきました。このため、これまで数年にわたり、倒木や落枝のおそれのある部分の除去や梢端部の切り落とし、枝払いなどの手入れを行うなどの林内整備を実施してきました。

このような中ですが、令和3年に、アメリカシロヒトリの幼虫が大量発生しました。周辺への被害抑止と、林内木の食害防除を目的に、幼虫を除去するための枝切処理を、住宅と隣接する場所を中心に実施しました。しかしながら、令和4年以降も発生がつついており、職員による駆除作業を行っている状況です。

【樹種転換事業】

このような状況を踏まえ、ヤチダモを伐採し、アメリカシロヒトリが発生しない樹種を植栽するといった、抜本的な林内整備が必要と考え、「樹種転換事業」を検討しました。

樹種転換事業の計画は、伐採率30%以内の伐採を行い、その跡地に苗木を植え、その後、苗木が育った段階で、最初に伐採しなかった上層木について、同様に伐採し苗木を植えることを繰り返します。このようにすることで、年月はかかるものの、高木を維持しながら樹種転換を図ります。

令和5年度中に最初の伐採を実施する予定で、現地は南北方向に長く、東西に民家・学校があることから、林縁を縦（南北）方向に伐採し植栽する形としました。これにより、林地と住宅との距離を保ち、住宅等への害虫被害を防ぐ構想です。

【今後に向けて】

次年度以降は、アメリカシロヒトリに強い樹種の植栽を行い、引き続き地域と一体となった活動の場としながら、森林整備に取り組む考えです。樹種転換には時間を要しますが、皆様方のご理解を得ながら、五稜郭国有林の保安林機能の維持と、健全な森林づくりに努力していきたいと考えています。



五稜郭国有林は、保安林であるとともに、町内会や有志による植樹や清掃活動、社会貢献の森として林内整備など、ボランティアや森林づくりの活動の場としても、地域の皆様に親しまれています。